
君へ

かすみ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君へ

【Nコード】

N6906C

【作者名】

かすみ

【あらすじ】

両親が亡くなったことを除けば、親友もいて成績もそこそこで彼氏だっている、伽乃子は平凡な高校生だった。そんなある日、大金持ちの子息満也の婚約者にされて……？複雑な人間関係が織りなす、二人の淡い恋物語。

プロローグ（前書き）

初めて投稿した作品です…。皆さんに楽しんで読んでいただくと嬉しいです！！

プロローグ

あのととき、彼は私に何と伝えたかったのだろう。

あの唇から、どんな言葉が発せられようとしていたのだろう。

謝罪の言葉？感謝の言葉？

それとも

「愛してる」？

まさか、三番目の言葉はないだろう。彼は死に際にそんな言葉を口にするような男じゃない。彼の性格は私もよく知っている。

それなら、彼は何て言おうとしたの？

彼がいなくなってから何度も考えてきたその問の答えは、いまだにわからないまま。きっと永遠にわからないままだろう。

何故なら、その答えを知るのは彼だけだから。

そんなことを思いながら、私は海の見える小高い丘を上る。両手いっぱい彼の好きだった水仙の花を抱えて。

彼が眠るお墓は、波音だけが聞こえる静かで小さな丘の上にある。

本来なら彼はもっと立派なお墓で眠るべき人間なのだが、生前の彼が質素を好んだのと私の希望により、ここにお墓がつくられた。

その小さなお墓の前で、私はそつと両手を合わせる。そして心の中で彼に語りかける。久しぶり、と。

こうして目を瞑ると、彼と彼と過ごした日々が思い出される。

まだ大人でもなくもう子供でもなかった私達。世界がきらきらと晴れ渡っていて、ギクシヤクと甘酸っぱく過ごしたあの時間たち。

「あの頃に戻れたら」。それは輝きをなくした時間の中に生きる全ての大人達の願い。

あの頃私がもう少し素直だったら、未来はどうなっていたんだろう？あんたにも私にも、もっと違うハッピーエンドがきたんだろうか？

別に私は今

「不幸だ」なんて思ってないけど。

でもそうかと言って

「幸せだ」とも言い切れない。

「伽乃子様^{かのこ}」

呼ばれて私は目を開く。一気にに現実に引き戻される。この輝きをなくした世界へ。

「伽乃子様。そろそろお時間です」

時計の針は、夕刻を示していた。

「そうだね」

また来るね、と一言だけ呟くと、彼の

「もう来るな」という声が聞こえたような気がした。

思わずくすりと笑う。

「…伽乃子様？」

「なんでもない。少し思い出し笑っただけ」

「満也様のさむいギャグでも思い出されたのですか？」

「あのギャグはすごかったよねーある意味!!!」

「その割には伽乃子様は大笑いなさってましたね。…さ、急ぎましよう。坊ちやま方がお待ちですよ」

急かされながら車に乗り込む。

ドアを閉められる瞬間、心の中でもう一度呟いた。

またね。満也。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6906c/>

君へ

2010年10月17日15時45分発行